

第2回 廃棄物処理方式等検討委員会

【開催概要】

開催日時：令和7年12月18日（木）14:00～15:15

開催場所：碧南市役所7階第1委員会室

【出席者】

〔委員〕

名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 鈴木 溫
中部大学工学部応用化学化専任教授 二宮 善彦
豊橋技術科学大学応用化学・生命工学系准教授 小口 達夫
名古屋大学未来材料・システム研究所准教授 小島 義弘
公益社団法人全国都市清掃会議技術指導部長 高橋 吉浩
愛知県産業資源循環協会専務理事 小野 俊之

〔事務局〕

碧南市経済環境部長 杉浦 英樹
碧南市経済環境部環境課長 中川 知之
碧南市経済環境部環境課課長補佐 澤田 貫
碧南市経済環境部環境課ごみ減量係長 鈴木 章宏
高浜市市民部長 岡島 正明
高浜市市民部経済環境グループリーダー 都築 真哉
高浜市市民部経済環境グループ主幹 神谷 英司
高浜市市民部経済環境グループ主査 栎植 一馬

〔オブザーバー〕

衣浦衛生組合事務局長 片山 正樹
衣浦衛生組合業務課長 芝田 啓二
衣浦衛生組合業務課課長補佐 安藤 理純

【次第】

1. あいさつ
2. 議題
 - (1) 事業方式の整理
 - (2) 処理方式の整理
 - (3) 今後のスケジュール
3. その他

【議事内容】

1. あいさつ
2. 議題
 - (1) 事業方式の整理

事務局より資料説明

委員長：質問、意見はあるか。

委員D：サウンディング調査の回答を依頼したのは合計9社なのか。どういう基準で選定したのか。

事務局：サウンディング調査に関して、こちらから回答依頼はしていない。公募を行った結果、回答のあった事業者は9社であった。

委員D：処理方式が偏っている印象だが、後の議題である処理方式の関係がある事業者にも声をかけたが回答を得られなかつたという理解で良いか。

事務局：公募を行った結果、自ら提案をした事業者がなかつた。

委員D：後の資料で整理されていない処理方式を実施する事業者が参加していない理解で良いか。

事務局：ご理解のとおり。

委員C：PFIの内、BT0・BOT・B00とコンセッションの違いは何か。また、リニューアル案の提案があつたが、リニューアル工事中のごみ処理はどうするのか。

事務局：コンセッションは、ごみ処理の分野で導入実績が無い事業方式である。運営権を事業者に譲渡する方式で処理委託費を事業者に支払う外部委託（民間委託方式）に似ている。また、リニューアル工事中の対応については、サウンディング調査で深堀した提案は無かったが、一般的に施設内部を順に工事を行うことや、一定期間外部搬出をする形となると考えられ、そういう検討要素が存在する。

委員F：民間活用については、公共の負担を減らしたい考えがあるのだと思うが、ある程度の支出概要や、交付金の活用などの議論になると思う。示された結果だけでは材料が少ないと感じる。また、外部委託（民間委託方式）の場合、完全に民設民営になり、倒産リスクやごみの受け入れしないリスクもあるので市町村の処理責任を考えるなら、単純に価格だけの比較という訳にはいかないのではと思う。ごみを資源やカーボンフリーエネルギーと考えて、地域還元するのであれば民間活用のメリットとなる可能性はある。

事務局：どこを掘り下げて確認して選択していくのが良いかを委員に提案いただくことが本委員会の狙いであるので、いただいたご意見は、今後掘り下げて検討したいと思う。なお、サウンディング調査では、外部委託（民間委託方式）の運営の仕方として公共をSPCの構成員としてすることで、長期間のごみ処理を担保する提案もあった。先行事例の情報収集を行い、精査したいと考えている。

委員長：費用負担シミュレーションについて、示されたグラフは公共が負担する費用という認識で良いか。

事務局：ご理解のとおり。

委員長：外部委託（民間委託方式）には土地購入費は含まれているか。

事務局：含まれている。事業者が土地購入した場合に委託費への上乗せ費用を想定して設定している。

委員長：金額を非公開としている中で費用を算出し、費用負担シミュレーションに反映しているが、設定根拠はどう考えているのか。

事務局：各事業方式のイメージとして、市の財政支出に関する費用負担シミュレーションをしている。

委員E：リニューアルの費用は分かるのか。

事務局：金額は出でていません。

委員E：土木建築費が高騰しているのは把握しており、リニューアル工事をしている事例もある。外部委託（民間委託方式）は、処理対象物として産業廃棄物を含むとあるが、ハードルが高いと思う。外部委託（民間委託方式）を選択するのであれば相当の覚悟が必要と思う。また、処理能力については、ごみ量減少により当初予定の能力がオーバースペックとなることや、発電ができなくなる恐れもあるため、気を付けて検討されるべきと考える。

委員F：外部委託（民間委託方式）に対しても、一般持ち込み料金や事業系一般廃棄物の処理料金等と言った費用負担がある。それらがいくらに設定されるかによっても負担が変わる。一般廃棄物と産業廃棄物の料金も異なると思うが、持ち込まれる際に見極める難しさがある。産業廃棄物だから汚いとか、危ないとか思わないが、レギュレーションの面で、料金体系を含めて考えていく必要がある。

委員B：PFIの実績について詳細な情報を調査してほしい。

事務局：承知した。

委員F：処理対象物として他地域の一般廃棄物や産業廃棄物を受け入れている事例はあるのか。

事務局：既存の民間施設が受け入れている事例は把握している。詳細な調査ができるれば次回委員会以降にお示しする。

委員F：事業方式を比較する場合には、条件を整理して提示してほしい。

委員長：私も同意である。また、リスクについても重要だと考えるため、PFIの事例を調査し、リスク分担の情報を示してほしい。

(2) 処理方式の整理

事務局より資料説明

委員長：質問、意見はあるか。

委員D：処理方式の実績整理は、近年採用されていない処理方式もあることから、近年の採用実績を整理されても良いと思う。

事務局：承知した。

委員B：サウンディング調査時にごみ量を提示しているが、他地域の一般廃棄物の受け入れ量などを具体的に提示できれば、調査への参加事業者が増加する可能性はあると思う。

事務局：サウンディング調査は、新設方針、想定建設場所、現施設の処理費用を提示している。また、クリーンセンター衣浦整備構想（改定版）における処理量を提示し、事業者に参考値として回答いただいている。条件は今後変わってくるとは思っており、方針が決定すれば改めて市場調査などの実施も考えたい。

委員F：処理方式の実績について、施設規模や建設時期を整理しても良いかと思う。両市に合う処理方式が浮かび上がる可能性がある。

委員長：施設規模や建設時期によって採用されている処理方式が違うと思う。情報がほしいため、整理願う。

事務局：承知した。

委員長：他事例でのごみ処理費用の単価は分からぬいか。バラつきがあつて難しいか。

事務局：バラつきがあり、お示しできる数値が無い。

委員F：ストーカとシャフトでイニシャルコスト、ランニングコストが異なると思う。可能であれば整理できれば良いと思う。

(3) 今後のスケジュール

事務局より資料説明

委員長：質問、意見はあるか。

・質疑なし

3. その他

委員長：その他質問、意見はあるか。

委員D：カーボンゼロエミッションに関する調査は行っていないのか。

事務局：本資料で示していないが、調査項目として「資源循環やCO₂排出量の削減に資する処理方法等の考え方」について調査を行っている。次回委員会以降でお話しできればと思う。

委員F：ゼロカーボンとするのであれば、ごみを発電することでの地域還元や資源の再利用は公共には無い知識が必要となり民間活力の活用に期待できると思う。その上で、どのような方針とするか決めていくのが良いと思う。処理能力が小さい施設では発電能力が小さくなることや、CO₂削減の観点からどのようなメリットがあるかなどを比較しても良いかと思う。

委員B：土木建築費が高騰しているため、その点も評価した方が良いと思う。

委員長：土木建築費高騰も踏まえて、今後議論していきたいと思う。

事務局：当初はカーボンニュートラルを踏まえて検討したいと考えていたが、土木建築費の高騰や財政状況が悪化している中で、コストを一番重視せざるを得ないというのが現状の見方。

委員長：他にあるか。

事務局：次回委員会は2月24日を予定している。

閉会